

# 8月の安全運転のポイント 平成23年8月号

交差点とその付近は事故が多く発生しており、ドライバーにとって最も注意が必要な場所のひとつです。今回は、信号機のある交差点での黄信号や発進時、信号機のない交差点の通過時に焦点をあて、安全走行のポイントをまとめてみました。

## 黄信号・発進時の安全走行のポイント

### 黄信号に変わった時は無理をせず停止する

信号が黄色に変わった時、加速して強引に交差点に進入する車を見かけますが、黄信号の意味は「停止位置をこえて進行してはならない」です。したがって、信号が黄色に変わった時は、交差点に接近していて停止位置で安全に停止できない場合（例えば、急ブレーキをかけなければならない場合や後続車に追突されるおそれがあるような場合）のほかは、交差点の手前で停止しなければなりません。

黄信号で交差点を強引に通過しようとする、停止した前車に追突したり、右折を開始した対向車と衝突するといった事故につながりますから、無理をせず停止しましょう。

また、大型車の後を走行していると信号が確認できず、黄信号や赤信号で交差点に進入し危険な状態に陥ることがありますから、大型車の後を走る時は車間距離を十分とって、前方の視界を確保するようにしましょう。

### 発進時には周囲の状況を確認する

「青信号 = 安全」ではありません。先頭車両で信号待ちをしていて、青に変わると同時に発進すると、渡り遅れた歩行者や自転車と事故になる危険があります。特に歩行者のなかには歩く速度が遅く、青信号で渡りきれない場合もありますから、発進する前に横断歩道の状況を確認しましょう。

また、先頭車両でない場合は、前車が発進したのを確認してから発進しましょう。特にトラックやワンボックスカーのように運転席の高い車は、信号にだけ目が向いて、直前の車の動きを見落とすことがありますから（図1）注意しましょう。

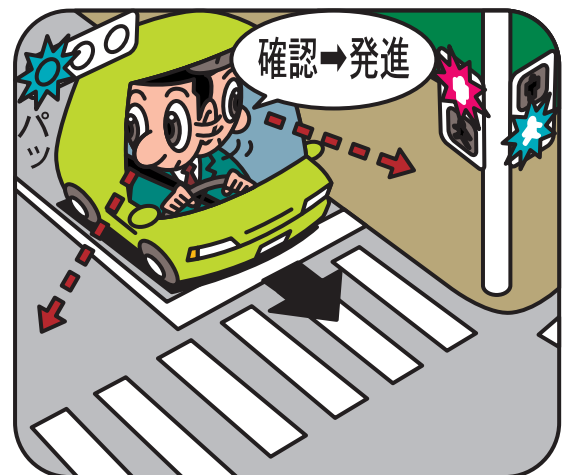
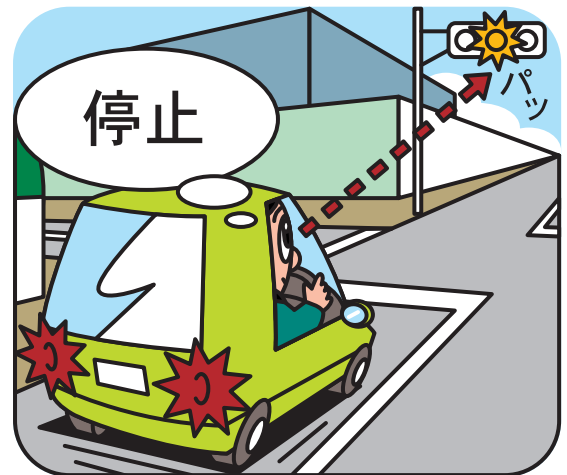


図1





## 信号機のない交差点での安全走行のポイント

### 一時停止による安全確認を確実に実施する

ここ数年の全国の交通事故統計をみると、交通事故の半数以上が交差点で発生しており、しかも、その約半数が信号機のない交差点で起きています。特に見通しの悪い交差点は出会い頭事故が多発しています。一時停止の標識や標示のある場所では、停止による安全確認を確実に行う必要がありますが、自分では止まったつもりでも実際には車は止まっていないというケースもよくありますから、次のような方法で確実な一時停止と安全確認を行うとよいでしょう（図2）。

停止線の手前で停止する。

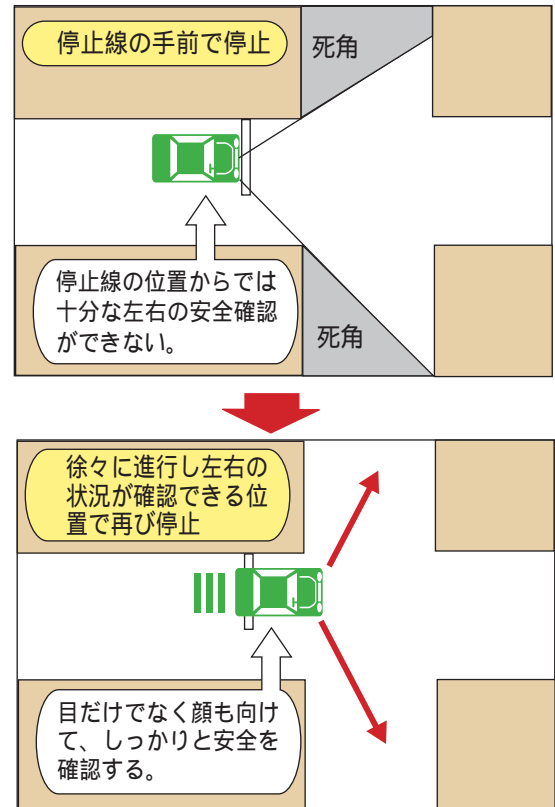
停止線の位置からでは左右の状況が十分に確認できない場合は、確認ができるまで徐々に進行して再び停止し、左右の状況を確認する。

いきなり左右の状況が確認できるまで進行すると、車体が交差道路にはみ出して、道路の端を通行する歩行者や自転車と接触するおそれがありますから、必ず停止線で一度停止しましょう。

### カーブミラーに頼らず自分の目で確認する

見通しの悪い交差点のなかには、カーブミラーが設置されているところがあります。カーブミラーでは左右の状況がある程度は把握できますが、距離や速度は正確には把握できません。また、バイクや自転車などの比較的小さなものを見落とす可能性もあります。安全確認は、カーブミラーだけに頼らず、必ず、自分の目で行いましょう。またその場合、目を向けるだけでなく顔も向けてしっかりと確認することが大切です。

図2



### 信号機のない交差点での優先関係

信号機のない交差点では、標識や標示で「優先道路」と指定されている道路（図3）や、明らかに道幅が広い道路を通行している車が優先されます。

また、道幅が同じような道路では、左方から進行してくる車が優先されます（図4）。

図3

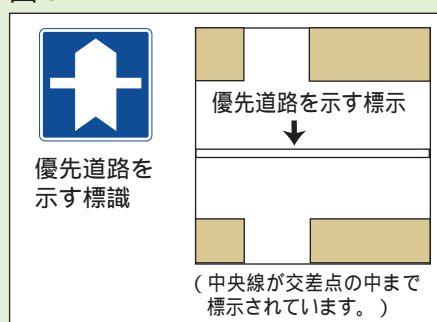
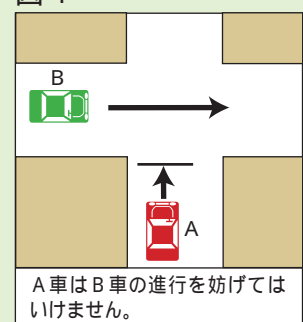


図4



「ご相談・お申込先」